



1. 学生の国際学会での発表

奈良女子大学国際交流センターは、大学院生の国際的な研究活動の促進を図るため、海外で開催される国際学会等で発表する際に必要となる渡航費を支給する支援活動を行っています。平成25年度は、4名の大学院生が選ばれ、国際学会で発表をしました。学生の報告文をご紹介します。

第20回 国際栄養学会議

人間文化研究科 博士後期課程 共生自然科学専攻 高井綾子

国際交流センターの助成を頂き、私は2013年9月にスペインのグラナダで開催された、第20回国際栄養学会議に参加しました。本会議には、120カ国を超える国から4000人以上の参加者が集まります。私は、熱帯に生息する木の実に含まれる、味覚を変える機能をもつタンパク質について研究しており、その成果について発表しました。味覚修飾タンパク質の研究は、栄養学の参加者には興味を持たれないのではないかと心配していましたが、同じように熱帯のフルーツを研究している女性研究者などに興味を持って頂きました。



発表時間は短いものでしたが、国を超えて興味を持ってもらえる研究内容であるということに、自信を持つことが出来ました。また、質問を通して多くのことを学ぶことができ、良い経験になりました。

本会議では、味の素株式会社の主催するセミナーがあり、モネル化学感覚研究所 (<http://www.monell.org/>) の博士による、うま味に関するトピックスについての発表がありました。うま味は、日本人が発見し命名した味で、英語でも *umami* と表現します。日本でも減塩などの点からうま味に関心が寄せられていますが、世界でもうま味の話は興味深いトピックです。夜のセッションにも関わらず、多くの参加者がおり、味覚は栄養学のなかでも重要なポジションであることを再認識することが出来ました。また、国を超えての共同研究の発表が多くあり、国際間の相互協力の大切さを感じました。

喜ばしいことに、開催期間中、8年後の第22回国際栄養学会議の開催国が日本に決定しました。私が今回実感したように、国際学会での発表は良い経験になります。しかし同時にさまざまな負担もかかります。本国際会議が8年後には日本で開かれることで、たくさんの学生にチャンスが訪れると思います。本助成と日本でされる国際学会等のチャンスを、多くの学生が活かしていけるよう願います。最後に、このような発表の機会を与え、支えてくださった方々にお礼を申し上げます。

第17回 アジア地区家政学会国際大会

人間文化研究科 博士後期課程 社会生活環境学専攻 劉蓬

2013年7月14日から19日にシンガポールで開催された第17回アジア地区家政学会国際大会(17th ARAHE BIENNIAL INTERNATIONAL CONGRESS 2013)に参加しました。私は現在中国に

おける留守児童対策の実施状況及び留守児童の生活環境について研究しています。今回はこれまでの研究成果をポスターで発表してきました。



今回の国際大会に参加してきたのは私にとって、貴重な経験でした。この5日間の国際大会参加により、英語でのコミュニケーション、シンガポール中学校の見学、観光などの経験ができました。また、研究の成果が認められ、国際大会参加者間の様々な交流を通して、国際的人脈を形成できました。

16日、18日に発表者として私はポスター発表を体験する機会があり、いろいろな方とコミュニケーションを楽しめるようになってきました。

学会での発表はさまざまな国から優秀な先生や専門家、及び学生の方々が来られて、発表のスキルや内容もたくさんのことを得るチャンスになりました。また、研究者の発表を聞くことができ、研究者との交流で新しい研究領域を知り、幅広い観点から研究を見ることができました。歓迎会や食事会などの主たる国際交流活動によって国際学会での研究発表、意見交換を得られました。そして、現在、国内外で行われている様々な研究領域の研究を伺って、今後自分の研究に役立つことになりました。

17日に行われたシンガポールの中学校の見学も非常に良い体験でした。中学生たちとのコミュニケーション、料理授業の見学と試食、環境教育計画の授業などの体験を通じて、海外中学校の家政科についていろいろな教育が行われていることが素晴らしいと感じました。海外の中学校の雰囲気をも十分に感じた上で、地域の特色を多角的にとらえる視点や方法が身につきました。



今回の国際大会を通じて、自分は大きく成長したと感じた一方、自分に足りないものを実感しながら、自分の研究に対して、もっとやらないといけないという刺激を受けました。また、今回の国際大会は私の今後の研究の糧となり、研究に活かせるように努力していきたいと思っています。最後に、手厚い支援をいただいた国際交流センター様、今まで多くの指導をいただいた先生方、調査を手伝っていただいた王令さん、いつも支えてくれている研究室の先輩たち、仲間に心より感謝いたします。

Experimental Biology 2013

人間文化研究科 博士前期課程 生活健康・衣環境学専攻 助口知絵

2013年4月20日から24日にかけてアメリカのボストンで開催された Experimental Biology に参加しました。Experimental Biology は解剖学や生理学、病理学、生化学、栄養学、薬理学など、様々な分野の約14000名もの研究者が世界各国から集まる学会です。これまでに日本国内での学会に参加し、ポスター発表をした経験が何度かありましたが、国際学会への参加は今回が初めてでした。そこで私は、“Sympathetic nerve activity and systemic arterial pressure during obstructive sleep apnea in conscious rats” という題目でポスター発表に参加しました。どんな人が来て、どのような質問をされるのかと不安が募る中、発表時間を迎えたことを今でも思い出します。幸い、多くの方がポスターを見に来られ、内容の説明や質問に答えているうちに約2時間の討論時間はあっという間に過ぎました。他国の研究者と議論を交わすのは緊張しましたが、とても新鮮で楽しく、充実した時間を過ごすことができました。ただ、語学力が乏しいために伝えたいことがあっても思うように言葉が出ず、単語や身振り手振りではか伝えることができない場面が多くありました。やはり、お互いにしっかりと理解し合うには言葉の壁は越えなければならず、自身の勉強



不足で相手に上手く伝えることができなかったのは非常に残念なことでした。今回の学会発表を通じて、研究に力を注ぐだけでなく、その内容をしっかりと発信していけるように語学を習得することの必要性を強く感じました。



今回このような場で発表できたことは、今後、研究を進めていく上で非常に良い刺激となり、本当に貴重な経験ができたと感じています。このような素晴らしい機会を与えて下さったこと、そして参加にあたって多くのサポートをして下さった先生方に心より感謝申し上げます。また、最後になりましたが、ご支援いただきました奈良女子大学国際学術奨励事業の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

Experimental Biology 2013

人間文化研究科 博士前期課程 生活健康・衣環境学専攻 馬淵香織

2013年4月20日から24日までアメリカ合衆国ボストンで Experimental Biology 2013 が開催されました。今回、私はこの学会に参加し、「Photic stimulation is required to elicit estrogen-induced anorexia in rats.」という発表題目で女性ホルモンであるエストロゲンの摂食抑制作用に及ぼす光の影響についてポスターにて発表させていただきました。Experimental Biology はアメリカの生理学会、生化学・分子生物学会、薬理学会、解剖学会、病理学会、栄養学会といった学会が参加する合同学会です。様々な分野の発表が行われ、参加者が1万人を超える大規模な学会です。今回の Experimental Biology 2013 への参加は私にとって初めての国際学会への参加でした。



英語での発表は予想以上に大変でした。今まで参加してきた学会では日本語で発表を行ったため、自分の伝えたいことを伝えることができました。しかし、英語での発表はそうはいきません。「言語」というものが自分の考えを伝えるうえで大きな障害となりました。普段英語で話すことがない私にとって英語で自分の考えを伝えることには、「自分の伝えたいことが日本語で思い浮かぶ→それを英語に変換する」という作業が必要でした。この作業がとても難しく、質問に対する答えを思いついても伝えたいように伝えることができず、もどかしい気持ちになりました。しかし、だからといって諦めるわけではなく、文章にできずとも、単語やジェスチャーを交えて話し、なんとか自分の考えを伝える努力はできたと思います。また、発表を聞きにきてくださった方が私の話に熱心に耳を傾けてくださったことが何よりの救いでした。



学会参加以外にも、ボストンでの滞在は私にとってとても充実した日々でした。学会の合間に、ボストン美術館やハーバード大学、マサチューセッツ工科大学を訪れ海外を体いっぱい感じることができました。

今回の学会参加を通して、多くの刺激を受け、さらなる研究へのモチベーションを得ることができました。また、自分の力不足を再認識し、英語力の必要性を実感しました。すべてにおいて、日本では体験することのできないことであり、貴重な経験となりました。

最後になりましたが、今回の学会参加にあたり、国際交流センターの皆さまから多くのご支援を頂き、ありがとうございました。また、終始暖かい激励、丁寧なご指導をしてくださった鷹股亮先生、今回発表したデータの実験を共に行ってくれた研究室の仲間にも、心より感謝しております。今回の素晴らしい経験を忘れず、今後も精進していきたいと思っております。

2. 海外協定大学への教員派遣事業

奈良女子大学国際交流センターは、海外の協定大学との教育交流を促進することを目的に、これらの大学へ本学の教員を派遣し、集中授業を行っています。また、教員派遣の際、授業の準備、教室運営等の実地研修や協定大学の学生及び若手教員との交流を目的に、本学の大学院生や学生が同行しています。教員に同行した学生たちの報告です。

派遣先：南京大学(中国)

派遣期間：2013年10月29日～11月3日

派遣教員：研究院 人文科学系 言語文化学領域 磯部敦 准教授

人間文化研究科 博士前期課程 言語文化学専攻 日本アジア言語文化学コース 田村美由紀



この度、私は10月29日～11月3日までの6日間、中国・南京大学にて行われる磯部先生の集中講義にアシスタントとして同行させていただきました。渡航前は不安もありましたが、お世話をいただいた現地の先生方や学生の皆さんのサポートのお蔭で、非常に有意義で充実した時間を過ごすことができました。

『テキスト分析概論』と題された磯部先生の講義は、「テキスト論」の立場でテキストにアプローチする方法についての概説と、「物語論」を用いてテキストを解釈するという実践的な考察を中心としたものでした。学生の皆さんにとっては新鮮なテーマだったようで、初日の授業こそ戸惑いが見受けられましたが、積極的な姿勢で講義に参加して下さいました。特に、ジブリ映画『千と千尋の神隠し』をクラス全員で鑑賞し、作品の構造分析を行うというトピックは、大いに盛り上がりました。日本語学科に所属するだけあって、学生の皆さんは（また先生方も）日本文化についての造詣が非常に深く、漫画・アニメなどサブカルチャーにも詳しいのですが、中でもジブリ映画は人気が高いようです。鑑賞後、学生の皆さんから提出された丁寧かつ斬新な分析には、私自身大変刺激を受けました。また、講義2日目には現在私が大学院で行っている研究について報告する機会をいただきました。これをきっかけとして、学生の皆さんとお互いの研究や大学生活について広く意見交換することができ、今後の研究への大きな励みとなりました。

また授業を離れたところでは、中国の豊かな食文化に触れることができたのも今回の滞在の印象深い思い出です。初日に開いていただいた歓迎会では、円卓を囲んでの本格的な中華料理に舌鼓を打ち、美味しい食事と楽しい会話に旅の疲れも吹き飛んでしまいました。その他にも南京大学のボリュームたっぷりの学食や、東北料理、水餃子、火鍋などなど…中国では食事の席でのコミュニケーションが、より良い人間関係を構築する上で重要な意味をもつようですが、先生方や学生の皆さんと共に食卓を囲み、会話に花を咲かせることで、親交が深まっていくのを私も肌で感じる事ができました。



このように6日間の中国滞在は、私にとってかけがえのない経験となりました。葉琳先生をはじめ日本語学科の諸先生方、現地でお世話を下さった学生の皆さん、渡航前のサポートをして下さった国際交流センターの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、このような貴重な機会を与えて下さった磯部先生にもこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

派遣先 :ハノイ大学(ベトナム)

派遣期間:2013年11月25日~11月30日

派遣教員:研究院 人文科学系 言語文化学領域 鈴木広光 教授

人間文化研究科 博士前期課程 言語文化学専攻 山下瑠璃

11月25日から11月30日の5日間ハノイ大学日本語学科に派遣され、鈴木広光先生の集中講義の補助および奈良女子大学の紹介を行って来ました。



講義日程としては一日2コマの講義を行い、最終日に奈良女子大学の紹介および留学制度の説明をさせていただきました。

講義は主にオノマトペについて行われました。日本語を学ぶ上でオノマトペはそれほど重要視されません。しかし、実際の日本語表現では多用され、日本語表現の重要な一角を担っていると言えます。講義では自然な日常会話の習得を目指し、オノマトペについての認識を深めました。

ただ、一語一語の違いはまさに「ニュアンス」としか言い様の無いものもあります。そのため少し難しく感じられる事もあった様ですが、その反面通常の講義では扱われない問題に対して見識を深めることができ、有意義な時間を過ごすことが出来たとの事でした。



最終日の奈良女子大学の紹介では、主にそれぞれの学科の研究内容についてお話させていただきました。日本の言葉だけではなく、日本の文化についても興味を持って下さっている方が多くおられ、講義後には特に日本の祭りについて詳しく聞かれることもありました。

奈良女での生活に興味を持っておられる方もいらっしゃったのですが、あまり、学生生活については話すことが出来なかったのが心残りです。

講義のない時にはハノイの街を歩きました。ベトナムと言えば「経済発展」という言葉で表現される事も多いと思いますが、実際の街の様子はそんな無機質な言葉で言い表せるものではありません。私が見たのは変わりゆく状況の中で、様々に対応し生きる一人一人の人間の姿でした。

紙の上に書かれた「ベトナム」では無く、生きて成長し続けている「ベトナム」という国を見せていただいたこと、そして日本に興味を持って下さっているハノイ大学の学生の方々の交流は貴重な経験となりました。

そしてこのような貴重な機会を与えて下さった先生方を初め、皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

派遣先 :ベトナム国家大学ハノイ外国語大学(ベトナム)

派遣期間:2013年11月25日~12月1日

派遣教員:研究院 人文科学系 人文社会学領域 水垣源太郎 准教授

文学部 人文社会学科 社会情報学コース 3回生 関春菜

私は、11月25日から30日の6日間、ハノイ国家大学外国語大学での水垣先生の講義の補助と現地学生との交流を目的に、ベトナムに同行させて頂きました。ベトナムでは驚くばかりの毎日でしたが、新しい発見ばかりで、大変刺激的な一週間でした。特に講義の最終日に、学部2年生のクラスを回って学生

たちとお話する機会があったのですが、そこでどの方も皆「日本に行きたい」と話していたのが印象に残っています。2年生ですので、単語もまだあやふやで、お互い相談しながら話している状態でしたが、日本のアニメや映画、マンガに興味があるようでした。自分の好きなものについて話す姿がとても一生懸命で、心に残っています。

ホテルから大学までの送り迎えをして頂いたファンさん、ドンさんをはじめ、講義が終わった後、お昼ご飯をご一緒したゴックさんなどの上回生・院生は、どの方もとても流暢にお話しされていました。話をお聞きすると、学部生は朝から夕方までずっと授業で、院生も日本語を教えながら学んでいるということでした。日本の大学生と比較して、勉強量の差に考えさせられました。また、大変活気ある街を歩きながら、きれいなショッピングセンターも増えているが、あまり人が入らないということを知り、街の発展と人々の発展にギャップがあるのかななどと考えもしました。



私は ESS に所属しており、外国の方と接する機会も多いのですが、このようにまたベトナムで現地の方と出会い、お話をし、国際交流の素晴らしさを体感できたことを、嬉しく思います。国際交流センターの皆様、ハノイ外国語大学の皆様、そして水垣先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

私は ESS に所属しており、外国の方と接する機会も多いのですが、このようにまたベトナムで現地の方と出会い、お話をし、国際交流の素晴らしさを体感できたことを、嬉しく思います。国際交流センターの皆様、ハノイ外国語大学の皆様、そして水垣先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

文学部 人文社会学科 社会情報学コース 3 回生 田島知世

私は 11 月 25 日から 30 日の 6 日間、水垣先生のゼミ生として、ベトナムを訪問させていただきました。私はベトナム語を読み書きすることができないので、とても不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、ファンさん、ドンさん、ゴックさんをはじめとした日本語を学んでいる学生の皆さんが親切に案内して下さい、非常に充実した時間を過ごすことができました。



ハノイ外国語大学に訪れた私は、日本語を専攻している大学生や実際にベトナムで日本語を教えている先生方と、「日本で実際に使われている日本語」

について勉強しました。学生のみなさんの中には既に日本語を流暢に話される方も多くいらっしゃったことに驚きました。日本の映画やアニメに字幕を付けて実際に音読して練習したり、日本のアイドル番組を見て勉強したりと、さまざまな方法で日本語にアプローチしていらっしゃいました。多くの方が日本の伝統文化やポップカルチャーに興味を持ってくださっていたことに感動しました。

また、ベトナムで一番うれしかったことは、授業の最終日に日本語を学ぶ 1、2 回生との交流時間を設けていただいたことです。日本の文化の良いところ、ベトナムの文化の良いところ、おいしいご飯について、将来の夢について、さまざまなことを話しました。学生のみなさんがキラキラとした笑顔で話してくださったことが印象に残っています。授業の後、学生 20 人ほどと一緒に、ベトナムスイーツの「チー」のお店にも行きました。私は女子学生の間に入って、彼女たちと恋愛の話で盛り上がりました。住んでいる国は違えども、同じ話題で楽しむことができることを実感できたことは、何事にも変えられぬ貴重な経験になりました。



ベトナムは活気にあふれた素晴らしい国です。たくさんの勉強の場を与えてくださり、お世話になった皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

3. 留学生の日本文化体験

奈良女子大学国際交流センターでは、留学生を対象に日本文化を体験する講座を開催しています。2013年後期は、10月に「いけばな教室」、11月に「茶道教室」を行いました。

参加した留学生の感想文をご紹介します。

いけばな教室

人間文化研究科 石森（中国）

10月16日(水)に開催された「いけばな教室」に参加させていただいて誠にありがとうございました。自分にとって人生初の自分でのいけばな体験でしたので、大変新鮮で楽しかったです。

秋に入手できる花やいけばなの主題の考えかたについて、またいけばなの流派からいけばなの構成形成まで、いろいろ学ばせていただいて非常に勉強になりました。何回か花のとげがささりましたが、すてきないけばなができて、よい体験になりました。

人間文化研究科 鄭巨丹（中国）

とても楽しい体験をさせていただきました。田中先生が丁寧に教えてくださって、いけばなについての認識が深くなりました。一見簡単に葉を切ったり花の構成を整えたりする作業は、本当に意味深いです。お稽古というのは手を使うだけでなく、心と脳を一緒に使った精神的な勉強だと分かりました。いけばなを通して、野原を離れた花や草がもう一度生き返って、新しく美しい命の形で人の前に現れ、人の心を癒してくれます。いけばなを通して、日本の伝統の美意識に触れ、とても感動的な体験ができました。



茶道教室

文学部 黃宇（中国）

とても楽しかったです。茶道についていろいろ教えてくださいました。茶道をより深く認識しました。礼儀を守ってお茶を点ててみたり、お菓子を食べたり、とてもいい雰囲気の中で、自分の人生などを考えることを体験しました。先生に丁寧に教えていただいて、ありがたいと思います。とてもいい思い出になりました。最後のお菓子は、イチヨウの葉や実の形で作られていてとてもきれいでした。私の故郷は特産物がイチヨウなので、そのお菓子を見てなつかしいと思いました。いずれにしても、とても楽しかったです。

人間文化研究科 謝麗娟（台湾）

私は日本のお茶が好きですから、日本の茶道を習いたいと思い、今回の茶道教室に参加しました。本当にいい体験でした。茶道教室を通して、茶道の礼儀や茶室の構造、飾りなどを詳しく教えてくださいました。またお菓子を食べるとお茶を飲む前のあいさつの礼儀もよく勉強しました。

正座を長時間すると足が痛くなりましたが、楽しかったです。



4. センター及び国際課の活動(2013年10月～12月)

◆ 国際交流センター及び国際課主催事業一覧

2013年	10月	2日	「新入留学生オリエンテーション・後期チューターガイダンス」
2013年	10月	16日	「留学生のための『いけばな教室』」
2013年	10月	21日	「ニュージーランド短期英語研修 NZ 勉強会／『異文化理解と平和構築』講演会 クライストチャーチ地震 復興の今」
2013年	11月	7日	「外国人留学生日本語スピーチ大会及び学長主催留学生懇親会」
2013年	11月	8日	「JSAF 海外留学説明会」
2013年	11月	11日	「ニュージーランド短期英語研修 渡航説明会」
2013年	11月	15日	「CIEE 海外短期ボランティア説明会」
2013年	11月	20日	「留学生のための『茶道教室』」
2013年	12月	2日	「TOEFL-ITP テスト実施」
2013年	12月	9日	「ニュージーランド短期英語研修 渡航説明会」
2013年	12月	12日	「奈良地域留学生交流推進会議主催スピーチ大会」

5. センター来訪者(2013年 9月～12月)

日付	来訪者	来訪目的
10月23日(水)	チッタゴン大学学長 Mr. Anwarul Azim Arif	学長表敬
11月28日(木)	在京都フランス総領事 シャルル=アンリ・プロソー氏	副学長表敬、学生との懇談

6. センター図書情報

国際交流センターでは、奈良女子大学で学ぶ留学生・日本人学生・ボランティア活動に興味をお持ちの皆さん等に図書の貸し出しを行っています。以下の図書を新しく入手しました。ぜひ、ご利用下さい。

【一般図書】

個性を煽られる子供たち／シャドーイングで日本語発音レッスン／日本語能力試験公式問題集 N1～N5／美しい人になれる「正しい日本語と敬語」30日レッスン／
シャドーイング 日本語を話そう 初～中級編



編集後記

今回も多くの学生に寄稿していただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。紙面の都合上、掲載できなかった原稿もありますが、次回号で掲載させていただきます。

国際交流センターNews Letter Vol. 33にご意見ご感想がありましたら、右記連絡先までお願いします。

(編集者: 中谷治子)

奈良女子大学国際交流センター News Letter vol.33

2013年12月発行 奈良女子大学国際交流センター
〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

E-mail: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/index.html>

